もんげー岡山!

水田の土の湿り具合は「見た目」と「握った感触」でわかります

湿った色をしていても、土塊を強く握った時に、湿り気をあまり感じない

土塊を強く握ると固まって、手のひらに湿り気を感じる

握る前に粒状の土塊になり、土塊を強く握るとしっかりと固まって、手のひらが濡れる

握る前に団子状の土塊になり、土塊を強く握ると手のひらが濡れ、固まらずにヌルヌルする

表2　土性を見分ける目安

土性	感覚の目安[z]	
	こねた時の感触	こねた後の形状
砂壌土	かなりザラザラして、粘り気は僅か	棒にならない
壌土	ある程度ザラつき、粘り気もある	鉛筆程度
埴壌土	砂の感じはなく、よく粘る	マッチ棒程度
埴土	砂の感じはなく、かなり粘る	こより程度

[z] 風乾土10gに対して水を3～5ml加えて、親指と人差し指でこねて判定

「見た目」と「握った感触」で丁度よい湿り気がわかる図（埴壌土の例）

開発のねらい

水田の土が、乾燥しているのか、丁度よい湿り気なのかを、「見た目」や「握った感触」で簡単に判断できる写真付きの図を作りました。

新技術の概要

- 握る前と握った後の土の写真を載せてあるので、見た目の違いで「乾燥」か「適湿」か「過湿」かがわかります。文章でもわかりやすく特徴を示しているので、判断しやすくなっています。
- 砂が多い土（砂壌土等）と、粘土が多い土（埴土等）とでは「見た目」や「握った感触」が違うので、土の種類別に4パターンの図を作りました。

活用場面

本技術は岡山県内の水田転換畑で野菜等を栽培する時の、かん水や排水の判断に利用できます。

環境研究室